

教材 No.	I	私と世界の幸せ
関連教科	特別活動、公民、英語、情報	
関連SDGs	目標1～17全般	

■教材の概要

- ①探究やSDGsは、幸せ（Well-being）と関係の深いものであることを理解し、高校での学び・探究の導入とします。
- ②SDGsの構造について理解を深めます。



■学びの流れ（赤：起承転結の発話、緑：生徒ワーク）

段階	活動内容
導入 10分弱	<p>1 「なぜ高校で学ぶのか。1つの考え方として、最終的には、みなさん自身が、そして、みなさんが所属する社会が『幸せ』になるためと考えることができるでしょう。」</p> <p>2 (アイスブレイク)</p> <p>3 (Well-being、自分なりの幸せの尺度、について説明)</p> <p>4 (人類が課題解決で獲得してきた様々な幸せ、世界はもっと良くなること、について説明)</p>
展開1 10分弱	<p>5 「さて、『皆さん自身の幸せを維持・実現するには』どうしたらよいでしょうか。」</p> <p>6 (探究の意義、幸せ実現に向けた社会対応の必要性、について説明)</p> <p>7 「社会としてアクションしなければ実現できない幸せも存在しそうです。そこで人々は知恵を結集し、人類として『ある作戦』を立てたのですが、どのようなものでしょうか？キーワードは利他の心と言えそうです。」</p> <p>8 (国連によるSDGs策定について簡易説明)</p>
展開2 25分弱	<p>9 「世界を幸せに導くためのルールであるSDGsは、どのような内容となっているのでしょうか？」</p> <p>10 (フォアキャスト・バックキャスト(演繹・帰納)の考え方を簡易説明)</p> <p>11 (ワーク：日本人の意識改革が特に必要と感じるSDGs項目(ゴール・ターゲット)とその着想理由を列挙。)【個人・グループ】)</p>
まとめ 5分弱	<p>12 「ゴール・ターゲット・指標を掲げることで人類の活動・態度を改め、未来に幸せが続くための、仕掛け・ロジックを具体的に見てきました。」</p> <p>13 (まとめ：SDGs・探究・価値づくりの観点で、ポイントを振り返る。)</p> <p>14 (振り返り：今後の探究や人生に生きそうな「気づきや印象に残ったこと」を各人でメモ。)</p>

■指導上の留意点（赤：起承転結の発話、緑：生徒ワーク）

段階	指導上の留意点、教材作成の狙い
事前活動	0 （授業予告と簡易思考問題の提示：幸せな状態とは、どういう状態？）
導入 10分弱	<p>1 「自分が幸せになるとともに、所属する社会も良くするための学び」と、学びの導入を行う。</p> <p>2 （アイスブレイク：事前活動の内容を、席の近い人と共有、又は、全体で共有。 注意：幸せの理由を述べる際、①個人的なことを必ずしも打ち明ける必要ないことや、②〇〇さんようにはならないように…、〇〇さんに共感して…など、具体的な他人のプライバシー・家庭環境などを明かさないう注意喚起。）</p> <p>3 （Well-being、自分なりの幸せの物差し：ポジティブな気持ちになれる事項（興味・関心領域）の発見・拡大や、志向する生き方・ライフスタイルへの気付きなどを「幸せの物差しの発見」と捉え、探究・価値づくりの折々で自覚を促していく。）</p> <p>4 （人類の課題解決事項、世界は良くなる：「世の中は課題が山積している」とSDGsの問題を先行して取り上げると、ネガティブ感情を回復する流れとなり、未来に対する希望・意志（＝幸福感）を抱きにくくなることを懸念。そのため、先行して社会が前進してきている側面に目を向ける。）</p>
展開1 10分弱	<p>5 「皆さん自身の幸せを維持・実現するには？」と、学びを深める発話を行う。</p> <p>6 （探究の意義、幸せ実現に向けた社会対応の必要性に触れる）</p> <p>7 「社会で対応しないと実現しない幸せもある」と、学びを深める発話を行う。</p> <p>8 （国連によるSDGs策定：ウェディングケーキモデルによって、知識や認識の足並みを揃える意図。漫然と17のゴールを記憶するにとどまるのではなく、環境・社会・経済・パートナーシップと4つの性質で記憶定着を促進。）</p>
展開2 25分弱	<p>9 「SDGsはどのような内容となっているか」と、さらに学びを深める発話を行う。</p> <p>10 （フォアキャスト・バックキャスト（演繹・帰納）：今後の探究の、動機付け・仮説構築に必要な思考であることに言及。）</p> <p>11 （ワーク：SDGsの構造・記述内容そのものについて、具体的なイメージを持つための活動。 自身や他者の着想理由を理解することで、課題発見の思考パターン・着眼ポイントの幅を広げる。）</p>
まとめ 5分弱	<p>12 「ゴール・ターゲット・指標を掲げ、人類の活動・態度を改めるロジックを理解した」と、本日のワークの意義に言及。</p> <p>13 （まとめ：SDGs・探究・価値づくりの3観点で、今後の教訓を確認する。）</p> <p>14 （振り返りの一例：今後の探究や人生に生きそうな「気づきや印象に残ったこと」を各人でメモ。）</p>
事後活動	15 （－）

■学習の目標

成長軸	指導の目的	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
SDGs	ゴール・ターゲットの構造を理解する。	SDGsの3層構造（ゴール・ターゲット・指標）を理解している。	ゴール・ターゲット・指標の種類や関係性を理解した上で、課題を検討できる。	自身の生活や社会を振り返り、他者の着眼点も参考に、SDGs課題を自分事として捉えようとする。
探究	フォアキャスト・バックキャストの思考を理解する。	演繹的思考と帰納的思考の両パターンが存在を理解している。	実社会の状況を想起し、ターゲット・指標が目指す状況に対する進捗度合いを考察できる。	国際的な視点を取り込みながら、実生活・実社会の課題を見出そうとする。
価値づくり	新しい指針やルールで、社会を良くできることを理解する。	指針やルールメイキングの効果を理解している。	一般化・抽象化された指針・ルールを、国や地域の事情に応じて解釈・想起し、課題を設定できる。	国際的な指針・ルールを拠り所として、他者の幸せも尊重しようとする。

■教科との関連（評価規準は学習指導要領に記載の、当該科目・単元の目標に準拠）

教科	関連する科目・単元 (学習指導要領との対応)	アレンジ例、利用例
特別活動	HR（人権教育、キャリア教育）	展開1の内容を活かし、人権教育やキャリア教育を進める前提事項として、幸せ（Well-being）の正体に理解を深める活動を行う。
公民	公共（個人の尊厳、職業選択、国際社会参画、持続可能な社会づくりなど）	展開1・2の内容を活かし、左記単元の導入や関連学習として活動を行う。
英語	英語コミュニケーション I	展開2のワーク内容を、生徒のレベルに応じた典型表現・構文を例示し、問題と感じた項目とその理由を英語で表現。
情報	情報 I（情報社会の問題解決）	展開2の内容を活かし、問題解決の一般的な流れと対比させながら、SDGsの3層構造（ゴール設定、指標運用等）の理解を深める。

■活動の狙い（SDGsの目標、探究の武器、知財創造教育の要素との関係）

段階	SDGs ゴール	探究の 武器	知的財産・ 価値づくりの 武器	尊重			創造			社会		
				人間の心を尊重する	既存のアイデアを尊重する	他者の強みを尊重する	課題を見つける	解決策・アイデアを考える	アイデアを表現する・伝える	自他の暮らしや人生を豊かにする	持続可能な「社会・文化」に貢献する	「未来」に貢献する
導入	1~17			◎	●	●				●		
展開1		地球市民意識		◎	●					●		
展開2	1~17	フォアキャスト・バックキャスト	ルール	◎	●		●		●	●	●	●
まとめ												●

■参考文献

No.	文献名称	URL等
1	外務省「JAPAN SDGs Action Platform」	https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/statistics/index.html
2	総務省「持続可能な開発目標（SDGs）指標仮訳」	https://www.soumu.go.jp/toukei_toukatsu/index/kokusai/02toukatsu01_04000212.html
3	朝日新聞社「SDGs169ターゲットアイコン日本版」	https://www.asahi.com/ads/sdgs169/result/